

就職活動を終えて

アジア文化学科4年 古田 美穂子

私の就職活動は2008年の2月から始まりました。1月の後半までは中国に留学していたため周りに比べたら少し遅いスタートだったと思います。今思うと、私は就職活動を大変甘くみていたと思います。留学していたため中国語は問題なく話すことができましたので、それが自分の強みになると信じていたのです。しかし、実際に始まった就職活動はそんなに甘いものではありませんでした。中国語を生かしたいと考えその関係の業種を希望すれば、やはり同じように留学経験のある人が沢山います。その中でどう自分をアピールするのか、それを私は全く考えていました。

終わりの見えない就職活動はとても長く感じ、つらいものでした。今では、自分が落ちたのは、企業の業種研究、会社研究が十分ではなかったのだと気づくことができましたが、とにかく試験を受け続けているときは何がだめなのか、どうすれば受かることができるのかさっぱりわかりませんでした。

結局、無事に地元のホテルから内定をもらうことができました。今、改めて自分の就職活動を振り返り、また友達の就職活動を見て感じることは、就職というのは、大学で4年間どう過ごしてきたかが大変影響するものなのかなということです。それは授業だけではなく、友人関係や余暇をどのように過ごしたのか、どんなアルバイトをやっていたのか、4年間過ごしたその全てです。実際私は、4年間同じコンビニでアルバイトを続けていたことやその働いていた姿勢を評価していただいて、その関係で就職を決めることができました。就職活動に「これ!」、という正解はないけれども、4年間生活してきた答えは必ず出るものだと思います。試験に落ちてばかりでどうすればいいかわからず不安になったときもありました。しかし今ではそれも私をとても成長させてくれたと思っています。就職活動はゴールではありません、この経験を生かしてこれからもまた頑張っていこうと思います。